

さいたま市公民館運営審議会第7回会議 議事録

1 開催日時

平成30年11月27日(火) 午前10時00分から11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者名

〈委員：14名〉

- ① 佐伯 加寿美 委員長
- ② 石田 玲子 委員
- ③ 碓井 麻由美 委員
- ④ 加藤 正晴 委員
- ⑤ 金今 義則 委員
- ⑥ 小池 茂子 委員
- ⑦ 島田 正次 委員
- ⑧ 寺田 道子 委員
- ⑨ 中澤 輝夫 委員
- ⑩ 堀杉 幸子 委員
- ⑪ 山崎 栄慈 委員
- ⑫ 山崎 秀雄 委員
- ⑬ 山田 玲子 委員
- ⑭ 山中 冴子 委員

〈拠点公民館職員：12名〉

- | | |
|----------------|-------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 森田 隆之 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 主査 | 浜田 順一 |
| ④ 大宮区 桜木公民館長 | 黒須 雄児 |
| ⑤ 見沼区 大砂土東公民館長 | 柳 潤子 |
| ⑥ 主任 | 石川 智美 |
| ⑦ 中央区 鈴谷公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑧ 桜区 田島公民館長 | 押田 龍彦 |
| ⑨ 浦和区 岸町公民館長 | 井出 浩史 |

- | | | |
|-------|----------|-------|
| ⑩ 南区 | 文蔵公民館 | 星野 務 |
| ⑪ 緑区 | 大古里公民館 | 島村 光一 |
| ⑫ 岩槻区 | 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：4名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|-----------|-------|
| ① 館長 | 野崎 隆史 |
| ② 副館長 | 大嶋 真浪 |
| ③ 主幹兼管理係長 | 釜 浩美 |
| ④ 事業・企画係長 | 荻原 唯史 |

4 欠席者名

〈委員：1名〉

- ① 久保木 央 委員

〈事務局：3名〉

- | | |
|------------|-------|
| ① 事業・企画係主任 | 榎 進吾 |
| ② 社会教育指導員 | 井上 裕未 |
| ③ 社会教育指導員 | 伏見 浩美 |

4 退任・新任委員の紹介

長谷部委員が退任し、新たに委員となられた寺田委員の紹介を経て議事に入った。

6 議題

- (1) 公民館の特色ある事業について

7 配布資料

- (1) 本日の会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第7回会議出席者名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第7回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第6回会議議事録（案）
- (5) 片柳公民館「お囃子体験教室」事業報告書（資料1）
- (6) 日進公民館「平成30年度コミュニティづくり支援事業」事業報告書（資料2）

8 公開・非公開の別

公開

9 傍聴者の数

0名

1 0 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

1 1 審議内容

審議冒頭、前回（さいたま市公民館運営審議会第6回会議）の議事録について、承認を経て議事に入った。

議題に入る前に、前回委員より質問のあった、平成30年度「さいたま市公民館要覧」の概要について、事務局より説明し、その後71回優良公民館表彰について、内野公民館が表彰されたことについて、事務局より報告した。

佐伯委員長	今回の優良公民館の報告は、中澤委員からさいたま市は推薦をしないのか、と一言おっしゃっていただいたことで話が進み、良い結果となりました。ありがとうございます。本当におめでとうございます。
一同	(拍手)
佐伯委員長	日頃、内野公民館を利用し支えていただいている加藤委員より、一言ありましたら。
加藤委員	先日、「うちのフェスティバル」に参加して、表彰状を拝見し、参加されている皆さんも大変感激されていました。私も同様です。これからも、人と人とのつながりなど、良い面をお互いに吸収しあいながら、切磋琢磨して公民館を盛り上げていただければと思います。
佐伯委員長	ありがとうございます。来年度以降も、良い公民館があったら推薦するというところでよろしいでしょうか。
荻原事業・企画係長	来年度以降についても、内野公民館に負けないような、良い事業をやっている公民館はたくさんありますので、まずはさいたま市のなかで優良公民館へ推薦する公民館を選んでいく仕組みづくりを含めて検討し、全館で良い事業をしていこうと考えております。
佐伯委員長	小池委員からもお話がありましたが、推薦する前に一度こちらでもんでいただくと、ブラッシュアップして良いものができあがるのではないかなと思いますので、そのあたりも御考慮いただければと思います。 それから、さいたま市公民館要覧の方で、何か質問等ありましたら、お願いします。私から一点よろしいでしょうか。25ページの上から2番目、「生きがい健康づくり教室」と、3番目の「高齢者支援事業」、それから真ん中のあたりにある「ますます元気教室」は、それぞれ65歳以上が主な対象だと思いますが、それぞれの区別がわからないので、説明いただけたらと思います。
荻原事業・企画係長	まず、25ページについてですが、こちらは平成29年度の生涯学習総合センター及び公民館の主催事業の一覧となっております。すべての事業を種別ごとに分けて掲載しております。そのなかで、「生きがい健康づく

	<p>り教室」と、「ますます元気教室」については、介護予防に関する事業ということで、市長部局の介護の部門である、いきいき長寿推進課、各区の高齢介護課、そして各公民館が共催で実施しているものです。そのなかで、「生きがい健康づくり教室」については、公民館が教室の内容をある程度自由に企画することができ、各地域のニーズに合わせた、65歳以上を対象に実施しております。座学形式のものもあれば、体操を行うものもあります。「ますます元気教室」については、以前は公民館がある程度自由に体操に関する内容の講座を企画しておりましたが、2年前から国の介護予防の制度改正に伴い、市の介護予防の方針についても、公民館のなかで「ますます元気教室」については、公民館が企画を行うのではなく、市長部局のほうで委託業者を選定し、講座の内容を委託し、公民館は会場の確保や公民館報などによる広報、当日の運営補助などを行い、共催しております。さいたま市においては、「ますます元気教室」のなかで、いきいき百歳体操という、椅子に腰かけたまま手足を動かしたり、立ったままでもけがをしない程度に体を動かすなど、あまり負担の大きい体操を取り入れるなどのカリキュラムが生まれ、受講後は自主グループを作っていただき、公民館やそのほかの場所で活動できるよう、受講者自身が自立した生活機能を維持しうることを目的として、実施しています。そして、これらの介護部門との共催ではなく、公民館が単独で実施している事業については、「高齢者支援事業」にカウントされております。</p>
佐伯委員長	<p>非常にわかりづらいので、3つの事業をくっつけて、共催事業とか委託事業とか入れていただいたほうが分かりやすいのかなと思います。それと、今年から障害者の生涯学習ということで、事業に取り組んでいると思いますが、この一覧にはその事業の記載が含まれておりません。人権や他の事業種別に含まれていると思うのですが、来年はそれを特出ししていただけるということによろしいでしょうか。</p>
荻原事業・企画係長	<p>本日お手元にありますのが、平成29年度の事業一覧でして、その当時は国からも障害者の生涯学習というところが表に出ていなかったのですが、今年度の各公民館の事業計画については、障害者の生涯学習に関する事業ということで取り組んでおりますので、特出しする形になると思います。</p>
佐伯委員長	<p>わかりました。今年度から、障害者に向けての事業に取り組まれていると思います。おそらく、各公民館では、障害者に向けての事業を実施してねということで組んでおり、いろいろなところでバラバラだということですが、年度当初山中副委員長からあったと思うのですが、来年度、継続で取り組むにあたり、事業計画を作成しているところだと思うので、山中副委員長から何か一言あったらおっしゃっていただきたいと思うのですが。当事者向けのものが少ないのではないかと。健常者に向けての事業があると思うのですが、ここでは障害者の生涯学習ということで。</p>

山中副委員長	<p>障害者の生涯学習について、国からも発信されていることは、皆さん御存じのとおりでありますし、来年度の計画も障害者の生涯学習ということが含まれているということであれば、大変結構だとは思いますが、障害のある当事者の方がどう参加できるかが、当たり前ですがポイントになるというところで、各公民館がどういう風に、近隣のリソースを活用しながら計画されるか、ちょっと難しいかもしれないですけど、当事者の方がなるべく参加していくというところで期待しています。特別支援学校等へ声がけをしていただくこともニーズがあると思うのですが、今、余暇支援の事業所も増えておりますが、社会教育という形で行うのであれば大きな特色になるのではないかと思いますし、公民館のそもそもの目的だと思うので、社会教育は学校を卒業された方を対象にしていると思うのですが、ちょっと対象を広くしていただきながら、ニーズを広げていきつつ、計画のアイデアを出せば楽しくなるのではないかという気持ちでいます。</p>
佐伯委員長	<p>ということで、センターの方にも、各区の拠点の方にもお願いしたいと思っております。障害者に対しての取組を入れていただけるような形で、近隣のリソースを拾っていくということが大切なんじゃないかなと思います。それでは、議事に入りたいと思います。</p>

議題1の「公民館の特色ある事業について」、事務局より説明のうえ、片柳公民館「お囃子体験教室」について（資料1）に基づき、事例発表した。

佐伯委員長	<p>はい、皆さんいかがでしょうか。非常に面白い取組だなと思いながら、聞いていました。山崎栄慈委員、非常にうなずいていらっしゃいましたが、PTA会長としてどうですか。</p>
山崎栄慈委員	<p>なかなか小学生、今は中学校ですけども、世代を超えて一緒に取り組めるものが私たちの地域にないので、すごく面白いなと聞かせてもらいました。</p>
佐伯委員長	<p>何かまた学校で参画できるかもしれないですよ。</p>
山崎栄慈委員	<p>そうですね、私の地域の親父の会もできたばかりですが、そういう団体も出てきたので、十分地域でやれるかなあなんて、公民館の館長さんともまた相談したいなと思います。</p>
佐伯委員長	<p>そうですね、ぜひ相談してみてください。他にいかがですか。</p>
金今委員	<p>私は小学校の立場から、今学校ではコミュニティスクールの関係で学校と地域との結びつきというの、今とても課題となっています。今のお話を聞くと、公民館が中心になって、地域のいろんなつながりを作っていたり、学校、それも小学校、中学校あとそれ以上の方も加わっていたり、いろんなところと結びつきを作っていくということは、とっても大切だなと</p>

	<p>思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。</p>
島田委員	<p>私は地域、自治会でおみこしをやっていますが、子供の担ぎ手がないことが一番問題で、お母さんたちも、来ても担がずに自転車で歩いている状態で、おみこしをどうしようかということで、どこも同じような縮小傾向にあるというなかで、伝統文化、こういうものが、公民館で支えてくれる保存会の方にとってもですね、非常に助かっているのかなと思います。お子さんは大きくなるとどこかへ行って、いろいろ勉強等で抜けるかもわかりませんが、次につながるようなことにも、いいのかなあと思っています。ただこのおみこしとお囃子となりますと、この中には、片柳地区の連合会という言い方をしていますが、おみこしのある小さな自治会、その辺の対応とどういうバランスが取れているのでしょうか。例えばあの、お囃子がある自治会、多分自治会いっぱいありますよね。片柳とか、その個々の自治会の対応のまとまりは、どのような形になっているのか。まあ公民館で、音頭をとっているのはわかりますが、各立場、立場の各自治会がたくさんあるなかで、はたしてこのおみこしのある自治会の管轄っていうのはどのような管轄をお持ちでしょうか。ちょっと皆さん縄張りがあるみたいな感じがあるので、こういう伝統文化っていう問題というと、それを聞かせてくれますか。</p>
佐伯委員長	<p>分かるところで、はい。お願いします。</p>
石川主任	<p>この夏祭り自体には片柳自治会連合会の協力も頂いていますので、全自治会の協力の中で実施をしています。ただこの実際に練り歩く地域の、確か染谷自治会だと思いますが、そこの方たちは実際に係といいますか、あなたたちはここの仕事をしてくださねって役割を持って、当日の運営を担っていますね。ただ自治会の連合会長を含め、自治会の方たち皆さん見にはきて頂いていますので、そういった関係になっています。</p>
島田委員	<p>そうですね。その定義がないと、ちょっと。おみこしがいないところと、あるところと、バランスがね。ひがみみたいのが出てきて、あるところは俺たちのエリアのみこしだという言い方になるといけないですけどね。地域あげての事業として捉え方であれば、それでいいのかなと思っていますけど。大変これ、こういうことやる勇気がいりますが、なかなかまとまらないのが現状で、郷土芸能とおみこしとかなりペアになっているものですから、非常にいいと思います。ありがとうございました。参考になりました。</p>
中澤委員	<p>片柳伝統文化保存会というところをちょっと調べてみましたが、会員数が、16人位しかいないところで、会費0でやっているところなんですね。これが、今回のような大きな事業に発展していくためには、多分公民館さんのお力添えがすごかったと思うんですけど。不安な点は、1つ目は、みこしの修理であるとかいろいろなことを、事業としてやりましたよね。その費用負担はどうなっているのかという問題があります。2つ目は、伝統</p>

	<p>保存会というのが、16名の中でやっている一方、地域に龍神祭りという大きな祭りがありますが、あそこの組織を見ますと、県知事であるとか、市長ですね、名誉会長になって大きな組織としてやっていますよね。ですから、そういう意味では、もうちょっとうまい動きをすれば、片柳伝統保存会が、大きな組織につながってきて、事業が本当に地域に根付いた祭りにもなるのではないかという気がします。それから3つ目は、私も地域の、見沼たんぼというところでNPOの活動をしています。ここはユネスコ協会連盟の目玉プロジェクト未来遺産に登録されていますが、そういう中での活動には伝統的なものがたくさんあります。そのような活動に対し公民館さんが核となっていていろいろな連携をとる働きをお願いしておったところですけども、そういう活動の一片を担われた形ですごくうれしく思います。ぜひこの事業というものを拡大していただくためにも、その文化保存会さんをどう育成していくかということについて、お話を伺えればと思います。</p>
佐伯委員長	石川主任、わかるところで。
石川主任	<p>まず予算等についてなんですけれども、当初はほとんどが協賛金、個人の寄付であったり、法人の寄付であったりを主体として実施してきていました。ですが、平成30年度につきましては、文化振興課の、さいたま市文化芸術都市創造補助金というのも頂いて、実施しています。といってもやはり協賛金が主な資金源となっている状況ですね。他の伝統とのつながりというところについては、見沼たんぼの方には片柳地域からだちょっと、何というか、距離があると感じているところがありまして、小・中学生を連れていくには遠方だというふうに考えているところがあって、まだ手を広げられていないところです。なので、この伝統文化保存会による夏祭りというのは、ほとんど枠組みもしっかりしてきて、定着してきたところでありますので、委員として入っている公民館長から、さらに色々な伝統文化にも手を広げられるよう、公民館としても促していきたいと考えています。よろしいでしょうか。</p>
佐伯委員長	<p>はい。ありがとうございます。皆さんよろしいですか。他にございますか。課題も出ましたけれども、ここの課題について、こういうふうにやったらいいのではないかというような何かアイデアありましたら。前回も団体ごとそのまま、そっくり入れたらというご意見出して頂きました。碓井委員、いかがですか。</p>
碓井委員	<p>素晴らしいと思います。十分広い範囲に提携して、このように公民館が核となって地域のコーディネーターとして、丁度いい立場で、お祭りを盛り上げるということは、素晴らしい計画で、実践して成功した事例で素晴らしいなと思いました。パーフェクトだと思います。</p>
佐伯委員長	<p>素晴らしいですね。パーフェクトだということで、さらに公民館がコーディネートの機能というか、これはもうもともとから言われていることです</p>

	<p>が、三者連携されて、さらに地域づくりをされているってところが本当に素晴らしいなと思いました。ありがとうございます。最後に、見沼区拠点公民館長の柳さん、お願いします。</p>
柳大砂土東公民館長	<p>見沼区拠点館大砂土東公民館の柳です。本当にこの片柳の事業は面白い事業をしてきているなと感じています。そもそも、お祭りがなかったところから、地域を盛り上げたいという、その地域の中みんなの気持ちを拾い上げて、その中に出て行っている。また片柳公民館の館長が、一生懸命やってくれていて、もともとこの地域の学校の校長職を経験していて、パイプも強く持っていることから、その強みも生かしながら、地域の伝統を活用して、どういうふうに盛り上げるかということをしているのだと思います。また、課題についても、これからどういうふうにさらに定着させて、盛り上げていけるか、外に広げるのもいいですが、これを続けていくということがまた、一つ大事なことだし、大変なことかなとも思います。そういったところも、見沼区としてみんなで協力しながら、またこういう事業を聞くと刺激にもなりますので、やっていきたいなと思います。ありがとうございます。</p>

事務局より議題1の「公民館の特色ある事業について」、日進公民館『学ぼう・伝えよう・つなげよう』日進餅つき踊り」を（資料2）に基づき、事例発表した。

佐伯委員長	<p>まだ発言されていない方いらっしゃいましたら、是非ともお願いしたいと思います。</p>
石田委員	<p>質問ですが、あの大晦日の深夜の行事であるってことですが、実際何時位から開催しているのですか。</p>
山崎秀雄委員	<p>私は子どものころから、公民館の隣に住んでいるので、神社があって、公民館があって、家があるので、ずっと関わってきました。曲づきしていた私達は、もう60前後の人たちがやっていますが、いろいろ問題があって、曲づきをやっていた人達の後の世代が、子どもたちが、我々の下の世代の人間がなかなか引継いでくれなくて、一時だめになりそうになりました。それを何とかつなげようとして子供たちにやってもらいたくても、小学生の時は来てくれるが、中学生ぐらい、高校になったらもうきてくれない。それを救ってくれたのが、日進にある自衛隊大宮駐屯地、そこにいる若い人たちです。その人たちが興味持ってきてくれて、我々の世代の下の世代は、その人たちが来てついてくれて、つながったのです。自衛隊の方は何年かで異動してしまいますが、一度お礼に行ったら、大宮駐屯地で餅つき部みたいなものを作っていて、それでみんなですつなげてくれているようなところもありました。そういうのもあって、ここまでつなげてきたのですが、もう40年前から始まったのですが、これは正確には1</p>

	<p>2時の鐘、元旦のスタートと同時に始めます。口上がその時点から始まる形になって、そこから餅つきを見せる。大晦日のうちにライトアップして準備してありますから、年明けと同時に奉納として餅つきを日進神社の境内でやるという形です。</p>
石田委員	<p>継続してくために、時間もやはり一つあると思いますが、お子さんたちが参加しやすい時間で開催がもし変更が可能であるのであれば、またちょっと参加人数が、変わってくるのではないかなという正直な意見になりますけど。はじめて映像を見ましたが、これは日本の伝統芸能で世界に発信していてもいいような内容の祭りじゃないかと思いますので、ぜひ頑張っって継続していってくれたらなと思っています。ありがとうございます。</p>
佐伯委員長	<p>すごく素敵な取り組みですよ。他に質問など、またご感想いかがでしょうか。課題とかも出ましたけれども。次世代の継承というところが、大変だと思うのですが。</p>
山中委員	<p>感想ですがよろしいでしょうか。私、すごく素敵な取り組みだなと思って大変参考になりました。みんなが参加しやすい時間に、特に子供さんを中心として参加しやすい時間帯で、しかもあの本物のこの練習しようというよりは見てみましょうとか、あと食べてみましょうとか、参加のハードルがいい意味で非常に下がっているというのでしょうかね、いろんな形の参加の仕方が保証されているということが、すごく大きいのではないかと、とても個人的に参考になったところです。いろいろな参加の仕方が認められているので、個々に選べる形でというのでしょうか、この伝統行事を知ることが可能になっていて、無理がない状態なので、おそらく参加者の方のアンケートからも、来年も楽しみにしていますという声が出やすいと思いますし、やっていくことが大事だなと思いました。のちのち夜中12時まで起きていられる年齢になるまでは、いい形でいろんな参加の仕方がこう認められていくということになると、可能性はあるのかなと思いつながら、聞いていたという感じです。ありがとうございました。</p>
山崎秀雄委員	<p>すいません。ちょっと間違った情報流しちゃうとまずいので。奉納は元旦に毎年やりますが、そこはちょうど参道わきで、ずっと長い行列で初詣の列ができています。もう夜中ですけどもお子さんもたくさんいらっしゃいますし、そのついた餅をこういう小さいパックに入れて、これを食べると1年間風邪をひかないと言って配ります。それを子どもたちがみんな喜んでもらっていくような形をしています。それとは別に皆さんに人気があるので、北区の区民祭りは毎年出ていますし、いろんなイベントに保存会が呼ばれて行って、そういう時に行ける人間で、何とかまかっています。ですから、この元旦の奉納だけじゃなくて、餅つき踊り自体は、区民祭りとかいろんなイベントにも参加していますので、そういうところに子どもが来てくれると、そういう時に一緒に参加してもらおうとつながっていきやすいなっていうのはありますので、ぜひ元旦以外にも回っていますので、も</p>

	し興味のある方はご覧になって頂きたいと思います。
佐伯委員長	堀杉委員いかがですか。見ていただいて。
堀杉委員	こういう伝統の行事があるってことは素晴らしいことだと思います。結構この餅つき大会は手軽にできて、何ていいますかイベント屋ですか。イベント屋に頼んで餅つき大会をやるうっていうところもありますよね。ですから、そうじゃなくて、こういうふうには地域の方が、全部自前でやるっていうのは素晴らしいことだと思います。
寺田委員	はい。今伺って、こういった伝統芸能を子どもたちに広めていくとか、つないでいくために子どもの参加しやすい時間に開催しているのは素晴らしいことだなと思いました。子どもはやっぱり学校だけじゃなくて、地域そして公民館といった、学校と地域と両方に居場所がある、両方で学べるというのが素晴らしいなと思いました。
佐伯委員長	ありがとうございます。こういうことを通じて地域づくりというものを、公民館が中心になってやっていると思います。山田委員は地域づくりを今、されていると思いますが、そういう観点からもどうぞ。
山田委員	ちょっとすぐにつながらないですけど、今あの初めて餅つき踊り見せて頂いて、素晴らしいなと思って、とてもわくわくしました。地域に自分の住んでいるところにああいう素敵なものがあるということをもっと知ってもらって、その魅力をみんなで共有して、伝統を守っていききたいなというふうに、そのきっかけを公民館が作ってらっしゃるっていうのがすごく素晴らしいなと思って、やっぱり地域への愛着っていうのを掘り起こすとか、そういうことが大事だなと思いました。
佐伯委員長	ありがとうございます。地域の愛着を掘り起こして、リソースを探し出すということですよ。特色ある公民館ということで、今回の運営審議会をやっていますが、小池委員何かございましたらお願いいたします。
小池委員	先ほど、山崎委員が高校生になると来てくれないと、公民館がどこも悩んでいるのは若い人たちですよ。自衛隊の力を借りて保存会の活動がどうにかつながらっている。ほんとやっぱりこう大晦日のあの時間帯、若い人たちはテレビにかじりついていたり、そういう時にはやはり東京ドームとか、アメ横とかへ行くっていうんですね。ここに来させるために呼ぶことがなかなかこういう難しい時代だなと思いますが。公民館として、片柳公民館は小学校の伝統文化教室というのもお囃子の一つの勉強ということと結び付けていくといった工夫になっているようですが、こちらは小学校とかの連携というのは、やったあとのことですよ。フォローアップ、公民館としてお考えになってらっしゃることがありましたらお願いします。
佐伯委員長	そのあたりはいかがですか。
浜田主査	はい。日進餅つき保存会さん自体でも近隣の小学校に出向いて行って、いろいろ披露してくださっていますが、単発に終わっているところもあって、なかなか餅つき保存会に入りたいという子どもが出てくるまでは、ま

	<p>だ至っていないっていうところが課題になっていると伺っています。その辺のつながりを公民館でしていければいいと思っているので、今後事業を継続していくにあたっては、学校の中の教育課程にどういうふうに位置づけるかとか、いろんなところのコーディネートが公民館が出来るといいかなと考えています。</p>
佐伯委員長	<p>ありがとうございます。では補足で山本大砂土公民館長お願いいたします。</p>
山本大砂土公民館長	<p>補足というほどではないですが、先ほどの課題にあったように、この伝統芸能をいかにして継承していく手立てを考えるかっていうところですが、実は最初の片柳の報告を見てですね、今小池委員がおっしゃったように学校教育との共同作業で、そういった地域事業が成功してきた一つの例を見て、ちょっと今二人とも話しましたが、やはりそういったところとのつながり、浜田主査が言ったように、保存会と学校との関係はあっても、なんか単発で終わっているようなところがある。やはりもっともっと公民館としてのコーディネートをいかにこうしていくかというのが、一番の課題なのかなって思っています。それで、先ほど山崎委員も地元だということでお話を伺いましたが、おそらく日進公民館でこの餅つき踊りを紹介する行事を行ったのは多分初めてじゃないかなということです。だから今までは保存会と学校なりいろんなイベントでの放射状での関わりがあったけれども、公民館を中心とした情報発信が今までなかったというところでしたので、まあ本当にまさしく今から始まった事業なのかなというところで、まあ片柳のような成功例をちょっと参考にしながら、やはり今後日進公民館と保存会、地域とのつながりを模索していく時期かなというふうに思っています。公民館でもこういった事業を計画した時に、やはりありましたけど中学、高校になると、一度そういったところから離れて行っちゃう若者を今後どうしていくのかっていうのが、一番の課題だねということも話しましたので、今後の日進公民館のコーディネートにちょっと期待したいなあというところもあります。以上でございます。</p>
佐伯委員長	<p>はい。どうもありがとうございます。なんだか公民館がすごくコーディネート、それからハブになって、パワフルな感じが、すごくこのところしてきたなっていうふうに感じます。皆さんから他にご意見ありますか。</p>
金今委員	<p>学校との連携という話と教育課程について話も出ましたが、小学校の方に積極的に声をかけて頂けると、いろんなところで協力はできると思います。例えば私のいる学校ですと、小学校3年生に地域について学ぶ授業がありますが、地域のことがわからない、どうしようと担任レベルでは困っています。結局、私のところへ来たんですね。一番知っているのは校長先生だろうと。私が話をしましたが、やはり学校としても困っているところがありますので、そういう情報がありましたら、話をして頂けるとありがたいと思います。岩槻ですと私の校ではいろんな掲示物頂いたり絵画と</p>

	<p>か、人形とかは置いたりしています。学校によっては岩槻人形の教室を作 って、展示室みたいのを作っておいたりとか、学校ごとにある地域の伝統 とか文化それを大切にしていってことをやっていますので、公民館の方 から「こういうのはどうでしょうか」って声をかけて頂けると大変ありが たいと思います。</p>
佐伯委員長	<p>はい。力強いお言葉をありがとうございます。他に何かございますか。</p>
島田委員	<p>今日の資料1と2で、私自治会会長やっています。最近ちょっとあま り記憶があまりよくないですけど、ちょっとずれているんですけども。さ いたま市で、自治会の加入促進ということで、去年から専門委員会を作 ってやっています。今ここに貼ってありますように、加入促進のポスターで こういうのがあります。そのスローガンとして、地域を知り、人を知り というポスターがあります。まさにこういうことによって、一つの加入促進 につながっていくのかなと思います。よく会議に行くと、この地区は何を、 どういうことをやるのですかと、こういう話が出てくるので、一つの誘 いの的なことでいいのかなと思いました。それから去年もそういう議論が出 ていましたが、コミュニティスクールの問題が出まして、地域をまさに学校 単位でかなり自治会で対応していますが、その中で地域の理解と言ってい ますが、これはあまり言っていないか難しいですが、学校に行っている生徒 のうちの家庭、新しく越してきた人たちが、地域になじむ、じゃあ自治会 入っているのかというと、そういう議論も出たこともあるので、こういう ものによってね、若干防止できるのかなと。促進のためには、 地域を理解していただくことはいいのかなと思っています。まあこういう ものを皆さん取り組んでいるのですけどね。なかなかうまくいかない というのが現状ですけども、こういうものを本当にやって地域の輪とい うか、地域を知るところが一番大事だと思いますので。ぜひ続けてもら いたいと思います。ちょっと自治会のウラ話、内面のこと話しましたが、こ れにつながればとそういう期待が込めた話でございますのでね、繰り返 してまた。以上です。</p>
佐伯委員長	<p>はい。どうもありがとうございます。前回のお話でも出ましたいろん なところを巻き込んでいくということが、やはり大切なのかなと思います。 ありがとうございます。</p>
中澤委員	<p>ちょっと質問が。今、小学校では地域連携コーディネーターであるとか、 チャレンジスクール盛んにやっておりますよね、そこの連携というのは 可能ですか。</p>
佐伯委員長	<p>事務局はどうですか。</p>
荻原事業企画 係長	<p>はい。お答えいたします。各学校にいらっしゃるコーディネーターさん と連携している公民館は、なくはない状況ですけども。他はですね、ち ょっと個々の事例というのは、ちょっと持ち合わせてないのですが、その 各公民館が地域の学校に出向いてですね、いろいろと依頼をするなかで、</p>

	校長先生を通す場合もあれば、コーディネーターさんを通す場合も、それは個々のケースで判断します。そこは今後も公民館さんのつながりの、一つのいろいろな方法があると御理解いただければよろしいかと思います。
佐伯委員長	ありがとうございます。
金今委員	今のチャレンジスクールに関して、公民館の主催事業と、なかなか連携しているのはお互い同時に組んでくなくて、難しい部分があったりするのですが、チャレンジスクールや講座のような形式で教室を開けますから、その時に公民館のサークルの方が指導者に来てもらうとか、そういう形でつながっているのが結構ありますね。学校の授業でも、例えば私の学校は岩槻の南部公民館の書道サークルの方が来て、書初めを教えてくださいますね。そのような形で公民館サークルとの連携というのは結構あります。
佐伯委員長	ありがとうございます。他にはいかがですか。
山崎栄慈委員	私が以前 PTA 会長をしていた小学校も、今そのコミュニティスクールのモデル校に指定されていまして、7校のうちの1つなんですね。こないだ会議が初めてありましたが、今感じたのですが、公民館の館長さんが確か来てなかったんですね。そのメンバー立ち上げの中に、僕帰ったら公民館の館長さんにね、入ってもらえるような進言をさせてもらおうと思って今感じていたとこなんです。やっぱりそういう地域を巻き込んでということで、公民館にハブになってもらうっていうのは、とても大事なことだと、まあ感想ということで、はい。
佐伯委員長	どうもありがとうございます。じゃあ、これから公民館長さんの出番が多くなるかもしれませんね。そのようにお伝えください。
森田指扇公民館長	校長先生からお話がありましたが、学校評議員の会議に公民館の館長の皆さんは行っています。それから公民館連絡協議会や、公民館運営協議会とか、そういう公民館がやっている会議にも校長先生に来て頂いていますから、普段からお互いに行き来があって、連絡調整はある程度はできています。またこれは一例ですけど、私は指扇公民館ですが、指扇中学校は文化祭の時には公民館で活動している団体の方を講師に呼んで、いろんな文化活動をいくつも生徒さんが体験しています。多分いろいろ学校の準備をしていくテンポもあると思いますので、お声がかかったら積極的に協力していける体制は整えていけたらと考えております。ありがとうございます。
佐伯委員長	はい。どうもありがとうございます。こちらから言いに行ってもいいですかね。学校に。
金今委員	はい。お願いします。
碓井委員	よろしいですか。幼稚園に関わっていることがありまして、そうすると幼稚園だと学習ということでもなく、遊びということと、園児は分けて考えていなくて、先生が何月には何をしようかという会議もあったりするの

	<p>で、そういう時に日進にはこういう餅つき踊りがあるんだよっていうことを12月とか少し早めに言っておくと、園長先生が園児にお話ししたり、知らないものを知ったというところがあったり、さっきは学校の話が出ましたけれども、この地域にはこういうことがあるんだよってお話しすると、興味を持たれるかもしれないし、その学校で餅つきがあるときに園児さんも行っていいような近くであれば出向くこともありますし、学校よりも少し下の保育園とか幼稚園まで視野に入れて頂くと、この土地にはそういう文化があるんだなって自分の土地の文化をずっと大人になっても持ち続ける気持ちも育まれるので、もう少し下の世代まで考えることが可能でしたら、チラシを配るとかお話しするとかも加えて頂けるといいと思いました。</p>
佐伯委員長	<p>はい。本当にいいアドバイスがありました。ありがとうございます。他にはいかがですか。</p>
石田委員	<p>私は北九州市に3年半住んでいたことがあるんですけど、その時北九州市には黒崎祇園山笠というお祭りがありまして、博多の祇園山笠と似ていますが、400年続く伝統行事なんですね。あの黒崎の町にはいくつか小学校があって、小学校と地域ごとにその山笠が違いますが、その時期、夏になるともうそこに関わるのが当然というような意識になっていまして、そのために自治会費も普通のところよりも高いんですよ。お祭りのために自治会費をたくさん集めて、私は引っ越してすぐに班長さんからちょっとごめんね、高いんだけどやってくれるというふうに言われて、引っ越してきた人にそうやって、もう当然にそこに関わるものだっていう形で、しかもそのお祭りに関わっているのは、昔は引き手というのは男性しかとってなかったみたいですけど、もうやはり少子化で女性、子どもたちもみんな参加するようになったらしいです。それで、先ほど碓井さん言われたと思いますけど、それこそもう小学校行ってないような子たち、ハイハイしているような子たちも、ハッピーを着て、そこのお祭りに参加して、一緒に引くような伝統行事になっていまして、そこまでいくには、やはりずっとそこに関わってきた人たち、それをずっと絶やさずこれからも続けていこうという熱意みたいなものがあると思うんですね。だからそれをやはり公民館が主体になって、全部公民館がほんと中心になって小・中学校にまで全部連絡するような形で、なにか行事をするときのこともみんな小・中学校も先生たちもひっくるめて、まちづくり協議会のその同じ場所において、それでみんなにこういう話を振っていたっていう形があったので、やはり一部の地域の代表だけ集まっているのではなく、いろいろその地域、地域になりますけど小・中学校全部関わりながらそのお祭りに向かってやっていくような体制になっていけば、また変わってくるのではないかと思いますけど。</p>
佐伯委員長	<p>そうですね。どうもありがとうございます。良いご意見ありがとうございます</p>

	いました。
山崎秀雄委員	<p>前回のこの審議会の答申、その中で、若者と地域をつなげる公民館の役割ということで話がありましたが、その時の答申の中に若者のニーズ、それから出やすい時間を研究していこうというようなところもあえて入れましたが、それと合わせてね、公民館が地域に出て行って、地域のいろんな団体と連携して、広げていって、会場も公民館に限らず学校の体育館だとか、自治会館だとか、そういうことを進めていった方がいいのではないかっていうようなことを答申で入れさせてもらいました。それをさっそく実践していただいた。そのことを館長さんたちにお礼を言いたいと思います。それがひいては、そういう公民館の特色につながってってくれたら、この答申ともつながっていくから大変ありがたいと思って感想というか感謝ということで、公民館長さん達にお礼を申し上げたいと思います。</p>
佐伯委員長	<p>はい。どうもありがとうございます。全くその通りだと思います。本当にありがとうございます。では他にご意見ありますでしょうか。では、事務局の方にお返しいたします。</p>
荻原事業企画係長	<p>本日の事例発表は以上となります。前回、本日と2事業ずつの事例発表をさせて頂きました。平成29年11月より審議しておりますが、今回で本審議会も7回目となり、残すところあと5回となっております。これまで本日を含めて、審議していただくなかで、公民館事業の事例発表、あるいは職員の意見交換をご覧になって頂いたりもしております。そのなかで、いくつかのご意見、ヒントとなるご意見等をたくさんいただいておりますので、次回の会議におきましては、今後の答申作成に向けまして、今までの会議のなかで頂きましたご意見、あるいは事例発表等を、こちらの方でまとめたものを提示したいと思います、そちらを参考にして頂きながら、今までの振り返りをしていただき、答申のたたき台を順次事務局で提示させていただければと思っております。今後、答申案の作成に向けて、今説明いたしましたような形で進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。</p>
佐伯委員長	<p>はい。ありがとうございます。答申案は一応、たたき台が事前に配布されるということでよろしいでしょうか。</p>
荻原事業企画係長	<p>そうですね。まずはこちらの方から今までの振り返りをさせて頂き、それとあとは、こちらでまずその骨組みといいますか、その素案のたたき台も含めて提示いたしますので、そこにまた皆さまのご審議の中でのご意見を取り入れながら、作成をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
佐伯委員長	<p>はい。わかりました。事前に送られてくるということですので、皆さま一度ご覧になって、次の1月の審議会にお越し頂けたらと思います。それではこれで議題は終わりますが、他に何かございますか。事務局からはありますでしょうか。</p>

荻原事業企画 係長	はい。ここで最後になりましたが、公民館運営審議会から他の会議等に推薦する委員につきまして、事務局より報告いたします。冒頭、説明いたしました通り、長谷部委員の退任に伴い、公民館運営審議会から社会教育委員会へ、長谷部委員を推薦していただきましたので、そちらを変更する形となっております。現在公民館運営審議会から、他の会議等に推薦をさせて頂いている委員の方が3名いらっしゃいます。この中で長谷部前委員を推薦させていただいておりました、さいたま市社会教育委員会の方につきましては、今後石田委員を推薦させていただくこととなりましたので、ご報告いたします。以上です。
佐伯委員長	ありがとうございます。石田委員どうぞよろしく願いいたします。
石田委員	お願いします。
佐伯委員長	それでは、本日の議事は全て終了いたしました。皆さまのご協力により円滑に議事が進みましたこと感謝申し上げます。ありがとうございます。ではこのあと事務局に進行お返しいたします。

次回は、平成31年1月22日（火）午前10時00分より生涯学習総合センター7階講座室1・2にて開催することを確認した。

11 閉会